令和元年度自己評価計画書（最終評価）

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度以降の取り組み（改善策等）
1 不断の授業改善により、生徒の主体的な学びを高め、３年間・５年間を見通した学力の向上を図るとともに、看護師・介護福祉士国家試験全員合格を目指す。	① ペアやグループで思考を深める場面や探究的な学習を適宜設定し、生徒の主体的な思考を促す。	「先生は、ペア学習・班活動・話し合い等、協力して学ぶ機会を設けている」 と評価した生徒の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　７５％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満　である。	１年生　７６．９％ ２年生　８２．４％ ３年生　７９．３％ 専攻科　７９．３％ 全　校　７９．０％ 評価　　Ｂ	ペアやグループ活動を通して、体験から得た学びを深化させ発表する場面を計画的に取り入れた結果、全校の肯定評価が中間評価時と比較し１．１％上昇した。 １年生には、授業のねらいを明確に示し、学習段階に応じた興味関心が高まる活動と課題を意図的に取り入れる工夫をする。 言語活動の充実に向けて、問題解決的な学習を適宜取り入れる。
	② 発表や討論、他者と対話する場面などを積極的に取り入れ、言語活動の充実を図る。	「班活動等では、積極的に参加することができた」 と自己評価をした生徒の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　７５％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満　である。	１年生　７５．３％ ２年生　８２．６％ ３年生　８８．７％ 専攻科　７８．１％ 全　校　８１．１％ 評価　　Ａ	グループ活動などで他者と対話する場面、生徒が考える場面を意図的に取り入れた結果、全校の肯定評価が中間評価時と比較し1．2％上昇した。言語活動を計画的に継続することにより、高学年での肯定評価の割合が高くなっている。 今後も、事例検討や発表の場面、学習意欲が高まる探究的な活動を積極的に設定し、学びに向かう力を育成する。
	③ 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。	＜１年＞ 偏差値４０未満の生徒数が Ａ　０人 Ｂ　２人 Ｃ　４人 Ｄ　５人以上　　である。 ＜２・３年＞ 偏差値５０未満の生徒で、今年度さらに低下させた生徒数が Ａ　０人 Ｂ　１人 Ｃ　２人 Ｄ　３人以上　　である。	＜１年生＞ ５年一貫校看護模試（１月） ０人　　Ａ ＜２年生＞ ５年一貫校看護模試(8月) ０人　　Ａ ５年一貫校看護模試(1月) ０人　　Ａ	〈１年生〉　１月結果：学校偏差値　６４．０ 学校評価　Ａ評価（１位/２７校中） 総合偏差値の最高８０．９（１位/１，０５６名中）、最低５１．７（８９位/１，０５６名中）であった。 校内模試（８月）の結果では、昨年度の生徒に比べ平均１０点以上低かったことから課題学習の強化に取り組んだ。その結果、生徒個々の基礎知識の確実な定着が図られたと考える。今後も更なる学力の向上に取り組む。 〈２年生〉　８月結果：学校偏差値　６５．９ 学校判定　Ａ評価（1位/２８校中） １月結果：学校偏差値　６６．３ 学校評価　Ａ評価（１位/３６校中） いずれの模試も総合偏差値５０未満の生徒はいない。１月の模試については、本校生徒が全国１位（受験者総数１，４３４名）である。

					＜３年生＞ ５年一貫校看護模試 （１月） ＜専攻科１年＞ 基礎力模試（１月） ０人　Ａ ＜専攻科２年＞ 看護模試（1 月） ０人　Ａ 看護師国家試験全員合格	＜３年生＞ 今年度より８月の看護模試を５年一貫校の模試から全看護学校が受験する低学年用の科目別模試へと変更した結果、 人体の構造：学校偏差値５７．１（１１位/２７校）、②疾病の成り立ち：学校偏差値４９．３（１３位/２１校中）、③基礎看護：学校偏差値４８．９（１７位/３０校中）であった。五肢択二問題に馴染みがなく確実な正解を選択できない生徒が多かった。既習知識を確実に定着させるため学習課題等を検討する必要がある。 １月結果：学校偏差値　６０．８ 学校評価　A評価（1 位/２７校中） 総合偏差値５０未満の生徒はいない。１月の模試については、本校生徒が全国１位（受験者総数１，０８４名）である。今後は、受験者数が多い低学年用模試と合わせて学習の成果を確認する。 ＜専攻科１年＞ 総合偏差値６８．１。概ね、基礎・基本的な知識の定着がみられる。自学ノートの継続、事例演習や臨地実習を重ね課題発見・課題解決能力を更に高めていく。 ＜専攻科２年＞ 総合偏差値５７．８。確実な模試直し、グループ学習、土日補習や学習合宿で弱点補強。国試出題基準内容の定着に向けトレーニング、個別指導を重ねた。
				＜専攻科１・２年＞ 偏差値４０未満の生徒数が Ａ　０人 Ｂ　１人 Ｃ　２人 Ｄ　３人以上　　である。		

	④	＜１、２年生＞ 毎日の課題をチェックすることで、家庭学習を習慣化する。 ＜３年生＞ 分野毎の小テストや個別指導を実施することで、専門知識の確実な定着を図る。	＜１、２年生＞ 毎日の課題を提出する生徒の割合が Ａ　１００％ Ｂ　９５％以上 Ｃ　９０％以上 Ｄ　９０％未満　　である。 ＜３年生＞ 国家試験演習及び国家試験の個々の得点率 65%以上の生徒の割合が Ａ　１００％ Ｂ　９５％以上 Ｃ　９０％以上 Ｄ　９０％未満　　である。	＜１年生＞ ９８．１％　Ｂ ＜２年生＞ ９８．６％　Ｂ ＜３年生＞ １００％　　Ａ	＜１年生＞年間平均９８．１％であった。二学期より課題の量も増えているため、課題が重なり大量に出た日には提出が遅れる生徒がいるという状態であった。このことから、来年度以降、課題の内容や量を調整するなど、生徒の実態に合わせた進め方をしていく必要がある。 ＜２年生＞年間平均９８．６％と前年度より１．５ポイント上がっている。今年度より本格的に介護実習（施設実習）が始まり、事前学習の実施などにより家庭学習の必要性が高まっている。今後も家庭学習を習慣化するために成果が見える取組を実施していく。 ＜３年生＞第３２回介護福祉士国家試験において全員合格を達成した。近年、取り組んでいるグループによる学習や基礎知識の定着のための小テスト、問題文理解のための解説を交えた補習などが成果につながったと思われる。来年度についても評価の基準を「全員が得点率６５％以上となる」を「Ａ」として進めていく。

学校関係者評価委員会の評価	看護師国家試験に向けた取り組みとして高校生に低学年模試の実施は有効。模試の結果も素晴らしい。国家試験の出題も難度が高くなってきている。問題の分析と弱点の把握、また生徒一人一人に対応した指導の継続を。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	難度の高い国家試験に向けて段階的な指導をしていく。理解力向上のためにも言語活動の充実（語彙力・文章力等の向上）への指導を継続する。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度以降の取り組み（改善策等）
2 田鶴浜の学びをとおして、看護師・介護福祉士に求められる健康な心身の育成を図る。	① 「田鶴浜高校いじめ防止基本方針」に基づいて、いじめのない学校作りを推進する。	生徒アンケートで「互いの人格を尊重し、いじめを絶対に許さないという意識」について「大いに高まった」と「高まった」の回答が Ａ　９５％以上 Ｂ　８５％以上 Ｃ　７５％以上 Ｄ　７５％未満　　である。	「高まった」「大いに高まった」の回答は ９９．５％ 評価　　Ａ	アンケートでは「大いに高まった」に５２．１％、「高まった」に４７．３％の回答があった。この結果は日頃の授業や講演会によるところが大きいとしている。また、学校祭での「いじめ撲滅」の寸劇の取組も生徒自身が「許されないもの」という意識を強く持つきっかけとなっており、今後もこの取組は続けていく。次年度は１００％に達成するよう取り組む。

	②	立ち止まって丁寧に挨拶をすることができるよう継続指導する。	保護者アンケートで「立ち止まって挨拶している」の回答が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満　　である。	できている　８５．５％ できていない１０．０％ 無回答　　４．５％ 評価　Ｂ	昨年度のアンケート結果（８２．０％）と比較すると３．５ポイント上昇している。これは学校全体の日頃の取組の成果であり、「立ち止まっての挨拶」については保護者の肯定的な感想もあるので、生徒には引き続きその意義を伝えていく。今後は生徒会と連携し、具体的な活動を明示し生徒自身が自発的に挨拶できるよう指導していく。
	③	積極的な部活動参加のため、部長会議を開催し、情報交換やリーダーシップ育成を行う。	アンケートで「活動日にはほぼ参加できた（寮閉鎖などで不可の日は除く）」とした生徒の割合が Ａ　８５％以上 Ｂ　７５％以上 Ｃ　６５％以上 Ｄ　６０％未満　である。	「活動日にはほぼ参加できた」生徒の割合１２月実施分は９３％であった。 評価　Ａ	部活動への参加割合は高く、前年度も含めてこれまでの声かけなどによる効果は結果として現れている。生徒達は専門教科の実技練習や、学校行事の準備などがある際にも、部活動との両立のため、時間で区切って参加をするなど自主的に工夫をしていた。具体的取組で挙げていた部長会議を今年度は実施することができなかった。生徒会執行部主催で実施したいと考えていたが、日程に余裕がなくそのような結果となった。来年度は部長によるリーダーシップで生徒主体の活動を促していきたい。
	④	縄跳びの実施により、自己記録の更新に努めながら、たくましい心身の育成を図る。	３分間で縄跳びを３００回以上跳ぶことができる生徒の割合が Ａ　８５％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７５％以上 Ｄ　７０％以上	達成率 １年生　９１％　Ａ ２年生　９５％　Ａ ３年生　８９％　Ａ 全体　　９２％　Ａ	中間評価時点での１年生８４％、２年生８９％、３年生７７％と比較すると全学年が数値を上げてＡ評価となった。ランキング形式で記録を掲示したり授業内で声かけをしたりすることで意欲喚起を行ってきた。また、クラス内でも励まし合う姿が多々見られ、目標達成につながった。今後もたくましい心身の育成を図っていきたい。

学校関係者評価委員会の評価	田鶴浜の生徒は地域でも礼儀正しいと言われている。いじめに関する意識は向上しているが、お互いを尊重することがなにより大事だと思う。そのような生徒であってほしい。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	いじめの実態調査も実施しており、部活、実習時など、あらゆる場面で多くの目で生徒を見ている。いじめではないかという状況があれば対応する体制は整っている。

重点目標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度以降の取り組み（改善策等）
3	本校の特色ある教育活動や、地域の医療･福祉を支える人材の必要性等の広報に努め、志願者の増加を図る。	①	体験入学、学校説明会、個別説明会の内容を充実させるとともに学校公開日、学校祭への中学生参加者の増加を図り、本校の教育活動とその成果の広報を強化す	一般入試の志願倍率（学校倍率）が１．１０倍を Ａ　上回った。 Ｂ　同程度だった。 Ｃ　下回った。 Ｄ　大きく下回った。	衛生看護科　１．４３倍 健康福祉科　０．５３倍 　　０．９８倍 評価　Ｃ	衛生看護科は高倍率だったが、健康福祉科は志願者確保に至らなかった。健康福祉科の志願者数は昨年度とほぼ同数である。 健康福祉科の卒業後の進路が多様であることや地域の福祉に貢献している点について広報活動を強化する。 本校生徒の生き生きとした様子を紹介した魅力的な広報誌の配付、ホームページの更新、各種説明会の説明内容の検討など、広報活動の充実を図る。

		る。			
	②	体験入学、学校説明会、出前授業、生徒の母校訪問などを通して、衛生看護科の魅力を発信する。	体験者アンケートで「５年一貫教育での看護師養成の関心が高まった」の回答が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満　　である。	①体験入学 １００％　　Ａ ②学校説明会 １００％　　Ａ ③出前授業 ９５．３％　Ａ ④健康チェック １００％　　Ａ ⑤全体９８．８％　　Ａ	すべてのアンケート項目でＡ評価を得ている。特に、①体験入学と②学校説明会においては、「大変関心が高まった」との回答がともに７５％を超えており、衛生看護科に対する興味・関心がさらに高まったと思われる。今後も、様々な場面を通して、本校の魅力を発信していきたい。
	③	生徒が作成した健康福祉科のＰＲ動画をホームページ内に取り入れ、多くの方に健康福祉科の魅力を知ってもらう。	ＰＲ動画の再生回数が Ａ　１ヵ月１２５０回以上 Ｂ　１ヵ月１２００回以上 Ｃ　１ヵ月１１５０回以上 Ｄ　１ヵ月１１５０回未満 である。	１ヵ月　３２回 （８月～１２月の最大月の回数） 評価　　Ｄ	５ヵ月のうち８月の３２回が最高であった。判断基準の再生回数は、昨年度のホームページのアクセス回数を基に立てたが、判断基準に問題があった。１０月から動画を追加した（今年制作した生徒作品）が、再生回数は伸びなかった。来年度に向け、評価基準の見直しではなく、健康福祉科の魅力を発信する方法を再検討する。

学校関係者評価委員会の評価	ホームページの閲覧伸び率はすごいが、生徒の動画が探しにくかった。生徒が楽しんでいる様子を前面に、大々的に持ってくるとよいのでは？ホームページもよいが、フェイスブックのほうが広まるのではないか。出前講座をもっと広範囲に。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	ＰＲ動画は再生回数が低かった為、新たなＰＲ方法を検討。要請のある出前講座は日程調整して必ず実施する。

重点目標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度以降の取り組み（改善策等）
4	業務改善の推進により教職員の多忙化の改善を図る	①	業務分担の適正化を図り、時間外勤務時間の平均を前年度より減少させる。	具体の取組を積極的に進め、１ヶ月あたりの時間外勤務時間が４５時間未満の教員の割合が、 Ａ　７０％以上 Ｂ　６０％以上 Ｃ　５０％以上 Ｄ　５０％未満　である。	年間の時間外勤務の平均が４５時間未満の教員の割合 ５８．３％ 評価　　Ｃ	１ヶ月あたりの時間外勤務時間が４５時間未満の教員の割合は４月４７．１％、５月４４．１％、６月５５．９％、７月５５．９％、８月９１．２％、９月４７．１％、１０月４１．２％、１１月４４．１％、１２月６１．８％、１月５２．９％、２月６４．７％、３月９４．１％であった。校務分掌によって、月ごとに時間外勤務時間の増減がある。そのため年度途中であっても校務分掌の担当割り・人数割りについて柔軟に対応し、業務の平準化を図っていく。

学校関係者評価委員会の評価	生徒に対する熱意と相反するもの、難しいと思う。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	時期的な忙しさはあるが、分掌の枠をこえ、協力しあう。